

平成27年度事業計画

平成27年度に予定している事業は、下記のとおりである。

1. 所蔵資料等の調査研究とその成果の発表
2. 資料の収集・整理・保管、修理保存
3. 資料の公開・展示等
4. 一般および青少年を対象とした教育普及活動

<公益目的事業>

I. 社会経済史・経営史関連事業

1. 研究員各自の調査研究（* a）を一層深め、外部研究者の参加も得て研究会や資料輪読会を定期的に行き、「三井文庫論叢」（第49号）の充実を図る。また、外部研究者の協力も得ながら、三井に関する歴史研究の拠点としての役割を果たす。
 - * a 三井を中心とする、江戸時代における商業史・金融史の研究、明治以降の経済史・経営史の研究等
2. 三井関係資料（* b）の調査・収集を進める。
 - * b 近世では、奉公人関係、仕入先関係など。近代では、三井銀行関係、旧三井物産関係（在米、在豪資料を含む）、三井鉱山関係など。
3. 資料保存のために、資料保管環境の整備や、貴重資料の複製作成（* c）を進める。
 - * c 三井本社資料、旧三井物産資料、三井鉱山資料など。
4. 未整理資料の整理と公開準備（* d）を進める
 - * d 三井本社資料、旧三井物産資料など。

なお、平成27年11月に三井本社資料（一部）の公開を予定。
5. 所蔵資料目録などのデータベースの整備を進め、そのWEB公開を進める。
6. 所蔵資料・刊行物等のデジタル化とWEB公開に取り組む。
7. 三井文庫財団創立50周年記念事業を実施する。
8. 所蔵資料の中から一般的に史料価値の高いものを翻刻刊行する「三井文庫史料叢書」のうち、大坂両替店「聞書」第二巻以降の刊行準備を進める。
9. 戦後の三井関連事業についてのヒアリングを行う。
10. 三井文庫WEBサイト（ホームページ）の充実をはかる。
11. 歴史資料の収集・保存・公開・研究に携わる国内外の諸機関との経験交流、情報共有、共同研究などに取り組む。
12. 三井グループ各社の資料保存や歴史研修などの取り組みに協力をする。
13. 研究成果の普及ならびに資料保存啓発のため、講演会など一般向けの活動に取り組む。

II. 文化史・美術館関連事業

● 文化史関係（資料の保管整理研究事業）

1. 美術館（三井記念美術館）の収蔵庫、別館（三井文庫別館）の収蔵庫・展示室改造の保管室、三井倉庫（辰巳）、以上三か所に分散保管する収蔵品につき、保管場所の固定化と、管理台帳への記載、定期的な実査の実施などについて、数年内の完成実施を目標に作業を進める。

美術品の移送にあたっては、美術品専門の運送業者に依頼し、細心の注意を払う。なお、修理・定期的手入れを必要とする資料（* e）については、専門業者や専門家に依頼し、修復・保全を図る。

* e 掛軸、巻物、漆工品、刀剣。

2. 美術館（三井記念美術館）および別館（三井文庫別館）の収蔵庫・展示室内の環境を適切に管理し、保管に万全を期す。特に美術館の収蔵庫・展示室に関しては、温湿度の管理を徹底し、空調設備の改善・微調整を行う。また、収蔵庫内の有毒ガスなどの測定を定期的に行う。さらに、美術館展示室の燻煙による害虫の駆除、別館収蔵庫・展示室のガス燻蒸による、害虫およびカビの駆除なども状況に応じて実施する。
3. 館蔵資料およびそれに関する資料、展覧会に関連するテーマについて、必要に応じて外部研究者の協力を仰ぎながら、調査研究を進める。内外利用者の便宜を図るため、コンピューターによる所蔵資料目録の作成・整理を進める。

また、並行して研究員各自の調査研究（* f）を一層進める。

* f 日本文化史、茶道美術史、陶磁史、絵画史、書跡史、漆工史、仏教美術史、神仏習合美術史等。

4. 三井記念美術館美術文化史論集第9号を発行する。
5. 学会・大学・研究機関などの研究会等を受け入れ、研究活動を行う。
6. 他の美術館・博物館の展覧会等に対し、資料の出品協力を行い、学術文化の振興に寄与する。

● 三井記念美術館（資料の公開事業）

1. 平成27年度は、公益財団法人三井文庫の財団創立50周年、三井記念美術館開館10周年を迎えるため、それらの記念展覧会を企画し、三井記念美術館の展示室において、次の5期に分けて展覧会を開催する。（年間開館日数261日間）

○ 『特別展 デミタス コスモス ～宝石のきらめき★カップ&ソーサー～』

平成27年4月1日（水）～4月5日（日） 開館日数：5日間（前年度より継続）

① 『三井文庫開設50周年・三井記念美術館開館10周年 記念特別展 I』

三井の文化と歴史（前期）茶の湯の名品』

平成27年4月11日（土）～5月6日（水） 開館日数：23日間

* 館蔵品による展覧会

『三井文庫開設50周年・三井記念美術館開館10周年 記念特別展Ⅰ』

三井の文化と歴史（後期）日本屈指の経営史料が語る 三井の350年』

平成27年5月14日（木）～6月10日（水） 開館日数：24日間

② 『特別展 錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！』

平成27年6月20日（土）～8月16日（日） 開館日数：50日間

③ 『特別展 蔵王権現と修験の秘宝』

平成27年8月29日（土）～11月3日（火） 開館日数：58日間

④ 『三井文庫開設50周年・三井記念美術館開館10周年 記念特別展Ⅱ』

三井家伝世の至宝』

平成27年11月14日（土）～平成28年1月23日（土） 開館日数：55日間

⑤ 『三井家のおひなさま』

平成28年2月6日（土）～3月31日（木） 開館日数：46（49）日間

* 館蔵品による展覧会

（注）展覧会名、開催期間等一部変更を生じる場合があります。

2. 美術品の貸出・借用にあたっては、管理・手続きを厳格に行い、事故防止の徹底に努める。
3. 上記展覧会のうち、②と③と④の展覧会では展覧会図録を発行する。
4. 展覧会に併せ、関連事業として、講演会・講座等を実施する。
5. 一般および青少年・学生等を対象として、学芸員および教育普及員による展示解説・講演・講義等、教育普及活動を行う。
6. 教育普及活動として、以下の活動を行う。
 - ① 小中学生を対象としたワークショップ（体験型の学習会）および鑑賞会
 - ② 青少年向けの展覧会ワークシートや小冊子の発行
 - ③ 都内を中心とした小・中学校の教職員対象の研修会
 - ④ 教育機関の研究会等の受入
 - ⑤ 都内の教育機関からの要望に基づく出張講座
 - ⑥ 教育普及事業の報告集を作成する。
7. 博物館実習の受け入れを行う。
8. 美術館の運営およびPR面において、つぎの課題に取り組む。
 - ① 各展覧会の開催に合わせて記者説明会、内覧会、特別観賞会を実施すると共に、電力事情に応じて、開館時間の延長（ナイトミュージアム）の実施を検討する。
 - ② 東京駅周辺の4美術館（ブリヂストン美術館、出光美術館、三菱一号館美術館、東京ステーションギャラリー）と連携し、当館を含めた5館を鑑賞回遊していただくためのツールとしてマップと各館の展覧会スケジュールを掲載したリーフレット「東京駅周辺美術館MAP」を、年4回共同発行する。また各館に1回ずつ入館できる「東京駅周辺美術館共通券」を各館1,000部限定で販売し、相互に入館者の促進に努める。
 - ③ 当館の普及広報活動の一環として「東京・ミュージアムぐるっとパス2015」に参加する。

- ④ 集客強化対策として、JR東日本「大人の休日倶楽部」等の有力会員組織との連携関係を強化する。
- ⑤ 来館者のリピーター化の促進および新しい来館者層を開拓するため、つぎの方策を講じる。
 - ・ミュージアム パスポート2015を発行する。
 - ・来館者アンケートを継続して実施し、そのフィードバックにより、顧客満足度の高いサービスの提供に努める。
 - ・ミュージアムショップ、カフェにおいては、テーマ性や季節感のある演出を心掛けるとともに、オリジナルグッズやメニューの開発を進める。
- ⑥ 近隣の商業施設・ホテル・美術館などのほか、行政および地元との関係を緊密にし、中央区主催のイベントへの参加や区民へのレクチャー等、日本橋地区の活性化に寄与する。
- ⑦ 日本橋室町地区の商業集積度の向上に合わせ、外国人来館者等への対応を進める。
- ⑧ 三井グループ各社へのインナーキャンペーンを強化し、「賛助会社社員・家族特別招待会」、「賛助会社部門長特別招待会」、「賛助会社社員特別招待会」、「賛助会社女性社員特別招待会」等を定期的で開催し、各社の新入社員研修等の受け入れを促進する。
- ⑨ 賛助会社のVIPご招待など、美術館閉館後の貸切り特別サービスを継続して行い、さまざまなニーズにできる限り柔軟に対応する。
- ⑩ 開館10年目(平成27年)を迎え、展示照明機器、空調関係設備機器の更新などを検討・実施する。

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

昨年度は、東京工業大学大学院建築学専攻の教授・学生の見学会や、外部講師を招き「三井高大コレクションの形成と`松の茶屋`土地の変遷」についての勉強会を実施したが、今年度も建築・茶道等関連学会や箱根町教育委員会主催「文化財探訪会」の見学会を検討する。

修繕工事についても、引き続き、老朽化した設備関係、屋根関係等の工事を行う予定である。

<収益事業>

I. 不動産賃貸業

三井花桐ビルは、平成26年2月以降全フロア満室となっている。今年度の修繕工事は簡易地震計設備工事、中性能フィルター交換工事、自動扉センサー更新工事等を予定している。

以 上